

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	ルンビニ保育園	施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成 31 年 2 月 12 日

総 評	<p>ルンビニ保育園は、昭和24年4月に設立され同年6月に宗教法人ルンビニ保育園となった歴史ある保育園です。園長は地域の民生委員・児童委員でもあり、委員の方やボーススカウトなどにも保育園の施設を活用してもらいなど、地域に密着した運営がなされ、平成16年9月の社会福祉法人瑞光福祉会ルンビニ保育園への認可後も地域住民及び保護者、職員とともに協力・連携しながら、地域に根ざした児童福祉施設として今日に至っています。</p> <p>保育方針に「あそびから学び、心と体の成長を見守る保育を目指します」を掲げ、子ども主体の保育実践に取り組んでいます。園内には子どもたちの造形作品が至る所に飾られ、子どもが主体的に活動できる環境整備にも努め、生活と遊びを豊かにする工夫が見られます。養護と教育が一体的に展開されるような保育が職員間で共有されています。</p> <p>子育て支援センター事業として「さるなあと」を実施し、専用のスペースを設けて、地域の未就園児親子がいつでも遊びにきたり、交流できるような様々な取り組みを行っています。</p> <p>園長を中心に、主任と協働して、保育方針に沿った保育が実践されるよう職員との連携に努めています。職員の経験年数も高く、その保育実践が落ち着いたものとなっています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3・4・5歳は、鉄簿や跳び箱など運動遊びのスペースと、ブロックやパズル、コマ回しなど玩具で遊ぶスペースに分かれています。また、道具（はさみ、色ペン、テープ、ガムテープ、リボン、紐、のり等）と材料（松ぼっくり、どんぐり、ペットボトルとキャップ、布、つまようじ、ペーパーの芯、紙コップ、紙箱、包装紙、新聞紙、ビニール袋等）を準備した制作遊びの部屋を設け、子どもが自発的に遊びを選べるよう工夫しています。 ・ 保育者は基本的には遊びを促したりせず、遊びを見守り、時には手伝いながら一言二言、丁寧に言葉掛けするよう心掛けていました。保育者が大きな声を出して子どもを指示することなく、ひとりひとり受容し、子どもの状態に応じた保育が実践出来るよう努めています。 ・ 「にこにこ地蔵祭り」、五老ヶ岳への親子遠足、運動会、作品展、「おととことばの発表会」などでは保護者が保育参加出来るよう配慮しています。それらの様子は、ドキュメンテーションを作成し、掲示するなど、保護者と保育内容について共有出来るよう取り組んでいます。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験年数の多い職員が大半で、新人が少ない事もあり育成環境についての具体的な計画は経験値に基づいて実施しています。今後は、文書化するなど育成に関する方針や標準的な方法を明文化し、行うとより良いでしょう。 ・ 記録内容が職員によって書き方や内容に差異が生じないように工夫されるとより良いでしょう。 ・ 子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めるとより良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	ルンビニ保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	平成31年 2月12日

保育所評価基準 対比シート (H29年4月～)

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	頁番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b	a
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	c	b
		3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	c	b
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	b
		5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	b
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	b
		7	②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	b
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	a
		9	②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	a

【自由記述欄】

・保育の理念、基本方針、目標が明文化されており、園の冊子や園内に掲示されています。理念や保育方針、目標については、管理者と職員が話し合い、保育所保育指針の改定と同時に、それに即して見直しを図っています。それらの内容は、入園説明会等で保護者に説明し、職員会議で職員へも周知されています。

・経理内容など資金面についての内容を職員に知らせるなど、事業経営を取り巻く環境等について職員にも把握してもらえるよう取り組んでいます。今後は、現在把握されている地域の福祉ニーズについて、定期的に同じ内容の地域の子どもを含む人口動態や周辺データを収集し、経営環境や課題について、定点把握出来るよう工夫されるとより良いでしょう。経営課題については、外部の会計事務所と連携し把握に努め、抑えられる経費を抽出するなど具体的な取り組みを進めています。

・法人の単年度の計画が策定されています。今後は、中・長期計画を計画の裏付けとなる収支計画と共に策定し、その内容を職員と共有し、さらに、保護者等に周知されるとより良いでしょう。単年度計画については、その実施状況の評価・見直しを組織的に実施し、職員の意見を運営に反映させています。

・ここ数年で一斉保育を少なくし、子ども主体の保育へと保育内容変更に取り組んでいます。それらの取り組みを進める中で、保育の振り返りや「反省文」を作成し、そこから抽出された課題に取り組み改善に繋がるよう努めています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	a	
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	b	
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a	
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b	b	
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	c	b	
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	b	b	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	b	
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	b
			18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	b
	19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	a		
	II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	a
22			② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	c	b	
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a	
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	a	
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	a	
		II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a	a
			27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	a

[自由記述欄]

・園長の役割と責任は職務分担表に加え、各会議内容の確認や、全体職員会議等で常にリーダーシップを発揮しています。園長から全職員への手紙を毎年配っており、職員とのコミュニケーションも大切にしています。今後は、遵守すべき法令等について口頭で周知を図るだけでなく、必要なものについてはリスト化するなど職員が把握しやすいよう工夫されるとより良いでしょう。

・園長や主任など管理者は、会議等で保育内容が園の方針に沿った内容となるよう努めています。一斉保育を減らし、子ども主体の保育へと移行する中で職員からの意見も取り入れ、連携を図るようにしています。

・全国保育士倫理綱領を求める人材像とし、園内にも掲示し、その周知・啓発に努めています。経験年数の多い職員が大半で、新人が少ない事もあり育成環境についての具体的な計画は経験値に基づいて実施しています。今後は、文書化するなど育成に関する方針や標準的な方法を明文化し、行うとより良いでしょう。日々の職員間の連携を大切にしていますが、今後は、定期的に管理者と職員による個別面談の機会を設けるとより良いでしょう。

・職員一人一人の研修の機会を確保し、各職員、約年10回、京都府保育協会のキャリアアップ研修を中心に参加しています。今後は、それらの階層別研修や職種別研修などの計画に沿った個別の研修計画を策定されるとより良いでしょう。実習生の受け入れについてはマニュアルを整備し、適切に取り組んでいます。

・保育内容や財務諸表などの情報をホームページで公表するなど、適切に公開しています。法人の運営内容は、外部の専門家によるチェックを実施し、健全な経営に努めています。公認会計士等による事業や財務の監査は実施していません。

・園長自身が民生委員・児童委員であり、地域の委員との連携を図っています。また園のスペースを利用して委員を中心とした地域の方やボーイスカウトなどにも提供し、音楽会やふれあいの集い、舞踊や歌のサークル活動などを開催し交流を図っています。支援拠点事業として「さるなあと」と称し、週4日施設の一部を開放し、自由に子育て家庭の親子が遊びに来れるよう取り組んだり、子育て事業として講演会なども年30回開催し、延べ4,500人以上の参加があります。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	a	
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	c	b	
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	b	a	
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a	
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	c	b	
	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	a	
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	c	b	
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	b	
	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a	
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	a	
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	b	
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	b	b	
	Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	b	b
			41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	b
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	a	
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b	a	
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b	b	
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	c	b	

[自由記述欄]

・全国保育士倫理綱領の職員への周知・啓発に取り組むなど、管理者から法人の理念や保育観を踏まえたアドバイスが職員の質問や相談に対して送られ、子どもたちを尊重した教育・保育について一貫した理解を持って実践出来るよう取り組んでいます。

・個人情報保護規程、個人情報取り扱いマニュアルを作成したところであり、今後、より利用者のプライバシーに配慮した職員教育を実施出来るよう取り組んでいます。

・自園の情報や理念・保育指針などを行政発行の情報紙やリーフレット、ホームページに掲載しています。園児の転園時には保育要録を転園先に送付しています。今後は、その手順と引継ぎ文書を定めるとより良いでしょう。

・苦情解決の仕組みを整備し、要望等に対し必ず園長が保護者に返答するようにしています。保護者アンケートは行事ごとに実施し、その内容はまとめて全保護者にフィードバックするようにしています。今後は、保護者が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成されるとより良いでしょう。

・感染症対策についてのマニュアルが整備され、周知を図っています。感染症が発生した場合には園内掲示と共に手紙とメールで保護者へ周知しています。災害時における実際に即したマニュアルがあり、園児への災害時対応訓練も実施しています。今後は、食料や備品等の備蓄を行い、管理者を決めて整備されるとより良いでしょう。また、不審者侵入時の対応を警察等との連携のもとで研修を実施されるとより良いでしょう。

・指導計画は全体的な計画に基づき、年間、月間、週案と策定し、それらの評価・見直しは各期に1回ずつ行っています。今後は、それらの記録内容が職員によって書き方や内容に差異が生じないように工夫されるとより良いでしょう。また、子どもの記録について適切に管理していますが、今後は、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めるとより良いでしょう。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
A-1 保育内容	A-1-(1) 保育課程の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a	b	
		A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b	b
			48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	a
			49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b	a
			50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b	a
			51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	a
			52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	a
			53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	a
			54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	c	a
			55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
	56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b	a		
	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	a	
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a	
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a	
A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a		
	61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	b	b		

【自由記述欄】

・全体的な計画は、保育所保育指針等の関係法令に基づき、入園から就学に至るまで、乳幼児期の発達過程に沿って、子どもの主体的な体験や、それに応じた援助等が記載され、長期的な見直しをもったものとなっています。今後は、地域の特性や実態をどのように捉えて保育に反映させるのか、記述を盛り込むと良いでしょう。

・玄関や園内には、季節の草花等の自然物や、節分の絵、鬼などの季節の造形作品を掲示したり、水槽で魚や虫かごで喋々を飼うなどの環境を整備しています。園庭にはくすの木、したれ桜、かきの木などの様々な木々を多く配置し、木、土、水などの自然物との関わりが持てるように配慮しています。

・乳児が落ち着いて過ごすことのできる環境として、段ボールハウス、ハイハイスペースなどの環境があります。保育者は丁寧な言葉掛けを心がけています。1・2歳の部屋は、室内に鉄棒や運動マット、はしごを用意した運動遊びをする動的スペースや、ブロックやパズルなどで遊ぶ静的スペースを設けています。3・4・5歳は、鉄棒や跳び箱など運動遊びのスペースと、ブロックやパズル、コマ回しなど玩具で遊ぶスペースに分かれています。また、道具（はさみ、色ペン、テープ、ガムテープ、リボン、紐、のり等）と材料（松ぼっくり、どんぐり、ペットボトルとキャップ、布、つまようじ、ペーパーの芯、紙コップ、紙箱、包装紙、新聞紙、ビニール袋等）を準備した制作遊びの部屋を設け、子どもが自発的に遊びを選べるよう工夫しています。

・保育者は基本的には遊びを促したりせず、遊びを見守り、時には手伝いながら一言二言、丁寧に言葉掛けするよう心掛けていました。保育者が大きな声を出して子どもを指示することなく、ひとりひとり受容し、子どもの状態に応じた保育が実践出来るよう努めています。

・数年前より「子ども主体の保育」の実践を目標とし、遊び込みを重視した環境構成に取り組んでいます。各保育室には、子どもたちが現在取り組んでいる活動の内容や結果を飾ったり、クレパスの色を再現する取り組み、アサガオ栽培の取り組みが掲示されています。粘土作品、泥団子、様々な草花等の自然物やイカやタコのスミで作った色水、それぞれの色水で染めた紙が飾られています。園庭には、子どもたちが流木で作ったツリーハウスがあるなど、子どもが主体的に活動できる環境を整え、生活と遊びが豊かになるよう工夫されています。

・4・5歳児は、シフォンケーキ、柏餅、パン、ピザ、焼き芋作りなどのクッキング保育を行ったり、菜の花、冬瓜、新米など多くの食物の栽培活動、食材を三色品種に分ける活動など、食への興味関心を育てています。毎月、ルンビニ保育園となかすじ保育園と合同で給食会議を行い、子どもの嗜好・喫食状況を把握し、両園の反省点と今後の課題を話し合い共有し、給食の献立、味付け、切り方など改善を図っています。給食室前等の共用スペースも子どもの遊び場所となっているため、給食準備のために職員が番重を両手に高く持ちながら、声掛けをしながらぶつからないように注意深く、子どもが遊ぶ中を何度も横切る場面がありました。手が滑り給食を落としたり、転ぶ危険性があるため、今後は、動線を工夫するとよいでしょう。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b	a
	A-2-(2) 保護者等の支援	63	① 保護者等が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b	a

[自由記述欄]

・保護者とのコミュニケーションは、日々の送迎時における対話や連絡帳、面談などに実施するようにしています。「にこにこ地蔵祭り」、五老ヶ岳への親子遠足、運動会、作品展、「おとことばの発表会」などでは保護者が保育参加出来るよう配慮しています。それらの様子は、ドキュメンテーションを作成し、掲示するなど、保護者と保育内容について共有出来るよう取り組んでいます。

・個別の自己評価の書式があり、目標の成果、計画の達成、クラス運営の振り返り等の項目について、職員が自己評価を行い振り返れるよう取り組んでいます。